



兵舎跡と見られる遺構を検出

土佐国府跡発掘調査

昭和六十三年年度の国府跡発掘調査が昨年十二月に終了し、官衙に関連すると思われる全国各地でも例を見ない階段状の段部を持つ竪穴遺構が多数検出されました。

この調査は県教育委員会が市教育委員会の協力で県指定史跡土佐国府跡の範囲を確認するとともに、国府の中心である国衙の位置を明らかにし、主要な遺構の規模、構造を解明、今後の保存、整備の方策を検討するための基礎資料を得ることを目的に実施しているもので、今回で二十二回目。昨年度の調査区域

の北、字金屋六九六平方メートルが調査されました。調査の結果、竪穴遺構十五基、周辺官衙のものと見られる掘立柱建物跡三棟、堀跡一列が検出されました。また、土師器や緑釉陶器、青磁など三万点の遺物が出土。なかには県下では珍しい耳皿（箸置き）もありました。

この竪穴遺構は、約二層四方で内部に直径十センチ程度の柱穴が四個と地表面と底面のち

ようど中間の高さがある突起部

があり、出入り口の踏み段として使われたのではないかと見られています。当初は貯蔵穴ではないかと考えられていましたが

ここから皿や椀、鍋などが見つかったことやまた柱穴の間隔が一層から一・二層と狭いこと、竪穴遺構のうち四基が真北に直交して等間隔に検出されたことから国府の警護のための兵士の宿舎である可能性が強くなって

きました。時期は出土遺物から十世紀ごろと考えられます。奈良文化財研究所では「全国

的にも珍しい。地方における官衙の構成を考えるうえで注目される」と話しています。

また、今回の調査では例年にないほど多量に古代の土器、特に土師器が出土。ヘラ切り底と糸切り底がいっしょに出土するなど、古代における土師器の編年の貴重な資料となると見られています。

そのほか、弥生時代の住居跡や木棺墓一基、土壇墓四基も検出され、国府成立以前の比江地区を考えるうえで好資料になると思われま

家庭教育のあり方を語り合う

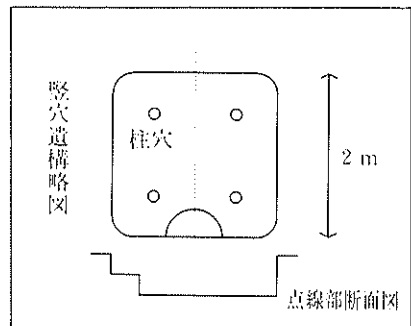
中央家庭教育学級で特別講演



家庭教育について山本院長が講演

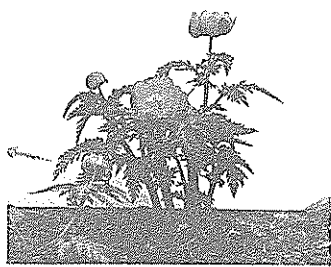
中央家庭教育学級第五回特別講演が、講師に山本浩志南園中央病院院長を招いて一月十八日に開かれました。

「子供の病気と家庭教育のあり方」と題して家庭教育についての考えと就学前の子供の病気と処置の仕方などが約二時間にわたって語られ、学級生ら三十人の参加者は熱心に受講していました。



平成元年に

福寿草咲く



岡崎さん宅に咲いた福寿草

おわびと訂正

一月十五日号広報なんこく二ページの建設常任委員「田島邦夫」氏は、「田島邦雄」氏の誤りでした。おわびして訂正いたします。